

美しい山形・最上川フォーラムの推進方向について《検討素案》

I. 社会・経済・環境の現状

《社会構造と暮らしの変化》

人口減少と高齢化
産業経済や地域コミュニティへの影響
生活志向の変化
「心の豊かさ」、「田園回帰志向」など
ウィズコロナ（ニューノーマル）
暮らしの行動変容、新しい働き方

《厳しさを増す経済環境》

グローバル化の進展
グローバル化と保護主義の台頭が地域
経済にも影響
新型コロナウイルス感染拡大の影響
外需やインバウンド需要の落込み
経済低迷の長期化懸念

《環境危機の顕在化とSDGs》

深刻化する地球温暖化の影響
風水害や土砂災害が頻発
最上川の大規模な氾濫被害
持続可能な世界に向けた取組み
パリ協定、海洋プラスチックごみ汚染
持続可能な開発目標(SDGs)

II. 美しい山形・最上川100年プランの推進状況の検証

最上川フォーラム設立の背景には県の長期構想であった「最上川創成構想」があり、産学官民による協働の指針として策定されたのが「美しい山形・最上川100年プラン」である。

《長期的に目指していく方向》

◆ 全国～世界に誇ることができる最上川

- ・水質は概ね良好に推移⇒「水質が最も良好な河川」には届かず
- ・日本遺産「山寺と紅花」、世界農業遺産申請「最上川流域の紅花の生産と加工」⇒最上川に関する魅力発信の機運醸成が進む

◆ 人々が交流し合い、生きがいを持って快適に暮らすことができる山形県づくり

- ・2018 幸福度ランキング 10位(北海道・東北で最上位)
⇒暮らし(安心)や雇用(安定性)が上位、産業(高付加価値化、新産業創出など)や教育(学力、進学率、産学連携など)で課題

《活動の成果と課題》

清流化

- 身近な川や水辺の健康診断＝環境教育の有効なツールとし定着
- ▲ごみ対策や文化の視点も含めた「広義の清流最上川」の推進

最上川文化の継承と発展

- 最上川舟運文化シンポジウム（2004年～2017年、9回開催）
- ▲地域文化継承の支援必要、最上川文化の再評価と活用の機運醸成

散乱ゴミ対策

- 美しい山形クリーンアップ・キャンペーン
- ゴミ発生源対策：スポGOMI大会
- ▲参加(露出)拡大の工夫
- ▲環境教育プログラムの充実
- ▲恒常的なモニタリングの仕組みと流出抑制対策の検討

最上川の利活用による地域経済の活性化

- 「最上川夢の桜街道」づくり
- 「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八ヵ所巡り」(H23～R2)
- ▲桜守の養成ニーズの掘起こしが不十分
- ▲現状把握とアフターコロナを見据えた活用方策の検討が必要

県民活動の推進

- ボランティア活動の年間行動者率は全国トップクラス
- ▲伸び悩みの傾向、活動参加に誘導する仕掛け、工夫が必要

受賞歴

- [H21] 公益社団法人日本水環境学会 水環境文化賞
- [H22] 日本水大賞、国土交通省 第12回日本水大賞 奨励賞
- [H30] 一般社団法人生命保険協会 スポーティライフ大賞
【地域コミュニティ部門】グランプリ

Ⅲ. 運営基盤の検証

組織基盤

- ・ 個人会員の減少と高齢化傾向続く
⇒ 会員拡大の取組み強化
⇒ 法人会員の顕彰やメリット還元 of 取組み
- ・ 「最上川サポーター」制度の創設
- ・ 部会活動の見直しと強化

財務基盤

- ・ 計画的な活動財源確保に取り組む必要
⇒ フォーラムの存在意義と価値を高め支援が集まり易くする努力
- ⇒ 企業のCSR活動やSDGsの取組みに提案するアクション

事業推進体制

- ・ 会員を活動参加に誘導する工夫が必要
- ・ 若者や女性の参画促進
- ・ 大学等との連携強化を模索
- ・ 国土交通省や県との連携協働を堅持
- ・ 市町村との連携強化が課題

Ⅳ. 今後の活動の推進方向

最上川フォーラムのミッション：SDGsを原動力として『豊かな自然環境と文化が息づく魅力的な山形づくり』を推進する

⇒ (グローバル) 地球規模の環境課題を学び、身近なところから行動を起こす取組みを展開する

(ローカル) 地域の環境資産や文化遺産などを保全し、活かして魅力を増進させ、地域社会の活性化に貢献する

柱1：将来を担う世代の育成

- 身近な川や水辺の健康診断、スポGOMIの広域展開やオンラインによる実施、教育プログラムの開発など
- 若い世代を中心に活動のすそ野を広げる「最上川サポーター」1万人運動を推進

柱2：地域の環境保全と安心づくり

- 美しい山形クリーンアップ・キャンペーンの展開、散乱ごみの恒常的なモニタリングの仕組みづくりと流出抑制対策など
- 河川愛護や文化継承とともに防災の知識と行動を学ぶ活動を流域全体で展開

柱3：環境や文化を地域活性化に活かす

- 良好な環境資産、魅力的な文化遺産や産業遺産を学び、守り、磨き、つなぎ、発信する
- ウィズコロナ時代の観光を支えるコミュニティづくりの支援やフィールド提供の推進(例) 夢の桜街道、湧水の里プロジェクト

【最上川フォーラムが取り組むSDGs】

- 13 気候変動に具体的な対策を ⇒ 温暖化効果ガス排出削減に資する活動を推進するとともに、気候変動の影響で生じる災害の被害軽減のための啓発等を実施する。
- 14 海の豊かさを守ろう ⇒ 海洋環境の保全に資するため、ゴミの流出等を防止する活動を展開する。
- 15 陸の豊かさを守ろう ⇒ 陸域における良好な自然環境を保全するため、水環境の保全や改善に取り組む活動を展開する。
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう ⇒ 上記を推進するにあたり、広範な主体との情報共有、連携、協働により取組みを進める。

Ⅴ. 特に留意する事項

- ◎ 最上川フォーラムの認知向上：様々な連携機会を積極的に活用してプレゼンスを高め、認知向上と参加拡大に取り組む。
- ◎ 若者や女性の参画促進：最上川フォーラム自体の運営体制はもとより、様々な活動の場面でも若者や女性の発掘と登用を積極的に進める。
- ◎ 国土交通省、県、市町村との連携強化：有益なパートナーとしての評価を高めるよう、必要な支援を獲得しつつ実績を重ねていく。とりわけ市町村との連携を強化して地域課題の解決に取り組む。また、最上川フォーラムの運動が県の政策に再度位置付けられることを目指していく。
- ◎ ウィズコロナを踏まえた活動スタイルの確立：SNSや動画配信、リモートシステム等を積極的に活用し、効率的な情報交流を促進するとともに、安全な活動スタイルを確立する。